

<b>学校の概要</b>		学校名	茅野市立永明小学校	学校長	飯嶋 政泰	児童生徒数	542名					
<b>「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について</b>												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
				市町村教委		○						
				自治会代表		○						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○						
				PTA代表		○						
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○						
				学校長・教頭以外の学校職員		○						
				ボランティアと学校の情報交換会がある		○						
				ボランティアの方を対象とした研修会がある		○						
名称	永明小学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)						
	地域住民 前PTA役員					地域コーディネーター	2人					
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0人						
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	4月14日 6月16日 9月1日 11月10日 1月26日 2月2日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校運営協議会理事					
<b>運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況</b>												
学校教育目標	ともに拓く～なかよく・かしこく・たくましく～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<input type="checkbox"/> 豊かな学び、確かな学びを身につけ、のびのびと表現できるかしこく、はつらつとした子ども <input type="checkbox"/> やさしく思いやりがある、友となかよくできる子ども <input type="checkbox"/> はつらつとした心と元気な体で生活する豊かさたくましさをもった子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	ボランティア登録者人数	140人					
						参加者延べ人数	320人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	5年 キャンプ火おこし(7/11)			4年 菊の植え付け(7/19)			1年 永明寺山遠足(10/27)					
	<b>代表的な協働した活動の取組例</b> (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>&lt;内容&gt;5年生のキャンプで飯ごう炊さんの火を自分たちでおこすお手伝いをしていた。</p> <p>&lt;場所&gt;キャンプ場は茅野市の青少年自然の森にて</p> <p>&lt;誰と&gt;永明小学校運営協議会 学校支援コーディネーターのYさん</p> <p>&lt;成果&gt;子どもたちは自分たちが飯ごう炊さんで使用する火を、マッチなどを使わず、自分たちの力だけで灯すことができた。学校支援コーディネーターのYさんは5年生が低学年の頃から、様々な学校支援のなかでかかわってきており、火おこし体験も低学年の頃から何度も経験してきたので、火をおこすのに早いグループでは10分もしないうちに火を灯すことができた。Yさんが子どものことをよく理解しており、子どもたちが使用しやすいように子どもサイズの自作の道具を子どもの人数分用意して下さっている。「Yさんが3年の時に教えてくれたからYさんのおかげで自分たちの力で火をおこすことができましたよ。」と学校職員ではない地域のプロの方から本物を学ぶことができています。教職員もYさんをはじめ地域の方々からその道のプロの技だけでなく生き方も実感し地域の方との関わりを大切に幅広い学習を展開できている。</p>												
<b>育てたい子どもの姿を具現化するための学校・家庭・地域の連携・協働を推進する上での課題</b> (運営上の課題を記入 例 人材確保について、打ち合わせや会議について等)												
<p>・コロナ禍であっても、朝読書の読み聞かせや、エゴマ油づくり、野菜作り、遠足の引率など感染対策をしながら地域との連携・協働を進めている。令和6年には小中学校一体型の校舎が完成予定である。地域の願いがこもった校舎でもあるので、中学校とも連携をしながら地域と共にある学校づくりを進めていくことがますます必要となってくる。</p>												